逍遥園

逍遥園の起源は十七世紀中頃にまでさかのぼります。当時の輪王寺の最高位の僧侶であった輪王寺の官守澄法親王（西暦1634-1680)の個人的な庭として造園されたのが、この逍遥園です。皇子が幼少期の大半を過ごした京都に近い琵琶湖畔の環境をイメージし、逍遥園は設計されました。逍遥園は造営以来、その美しさから、何世紀もの間にわたり多くの評判を得、多くの著名人がここを訪れました。(例えば)1817年には米国18代大統領のユリシーズ・シンプトン・グラントも逍遥園を訪れています。今日逍遥園は、秋にもみじが色づくころ、特に美しくなります。

逍遥園は、日光の自然環境を用いて設計されています。(遠くに見える)男体山の景色が、庭内の整った風景に溶け込み、その上、庭じゅうに置かれた石は全部日光の山と川から集められたもの。逍遥園は、”日光の自然を一度に経験できる庭”と言われています。